吉田幸一編

護國諸家記

上

古典文庫

吉田幸一 編

諸家書考平記 上

國學院大學図書館蔵
江戸時代文書
江苏工业学院图书馆藏章

古典文庫

古典文庫第六三二冊

平成十一年七月二十日印刷発行　非売品

記平太前家諸

上

編者　吉田幸一
発行者　吉田幸一
印刷者　白橋印刷所
製本者　共伸舎

発行所　古典文庫
114-0024
東京都北区西ケ原三ノ三四ノ一二
電話　〇三（三九一〇）二七一七
振替口座〇〇一九〇-九-一四五九七番

（版権所有）

© KOTEN BUNKO, 1999. Printed in Japan

目次

凡例……三
諸家前太平記　目録・序……二
諸家前太平記　巻之一……一三
諸家前太平記　巻之二……六五
諸家前太平記　巻之三……一一
諸家前太平記　巻之四……一五九
諸家前太平記　巻之五……二〇三

諸家前太平記　卷之六……二四七
諸家前太平記　卷之七……二九一

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

凡例

一、本書は、絵入『諸家前太平記』正徳六年版、目録一巻、十四巻全十五冊を底本として翻刻した。作者は明記されていないが、月尋堂の作ではないかと思われる

一、翻刻に際しては、できる限り底本に忠実にと心がけ、大体次のようにした。

(1)漢字・仮名表記の別、送り仮名・振仮名等はすべて底本のままとした。漢字は常用漢字に直したものもあるが「蜜談→密談」「懐劔→懐剣」と、概ね底本通りにした。人名・地名は底本通りの字体にした。「福嶋」「大坂」「連龍」など。

(2)作品中、同一の用語「鉄鉋、鉄炮」「簇・旗」「小姓・小性」「曽称・曽根」などは両方そのまま用いた。また、「采牌(さいはい)」「叮嚀」「左様」「迷途(めいど)」など、漢字は正しいので底本のままとした。

(3)各巻の目録と本文の標題とに違いのあるものがあるが、底本のままとした。なお、最初の「目録一巻」は本文と重複するので、翻刻では省いた。

(4)底本には、読点、濁点が施されているので、すべて底本のままとした。ただし、文章が長く続いていたり、固有名詞が数個以上列なる部分は、適宜字間をあけた。

(5)徳川家・新御所・両大臣・大臣家・両君などの語の上は常に一字分あけてあるので、そのまま一字分あけた。

(6)底本の丁付にしたがって、その下に表・裏（オ・ウ）の区別を記し、各丁（裏）毎に改行した。

(7)挿絵の所は、挿絵第〇図として順番号と丁付をつけ、挿絵そのものは、組版の関係上、その丁付の前後に入れた。

一、解説は、最終巻の後に記した。

國護

諸家前太平記

護國

諸家前后漢記

諸家高名記述編

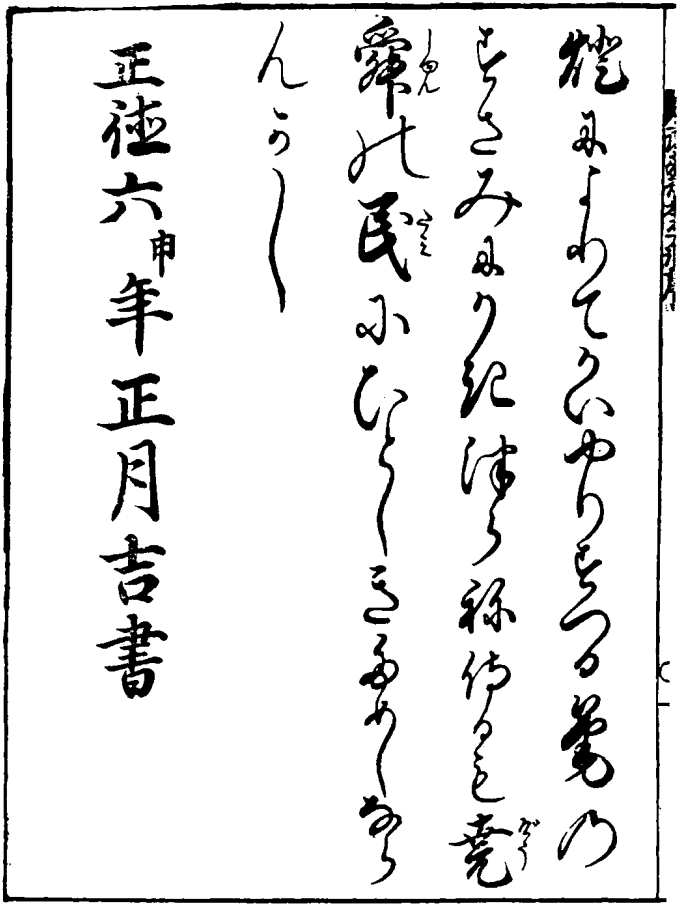
年分分卷八全拾五冊

扉

諸家前太平記序

松は千歳の春をもてはし叡慮の若
の子代万代をゆるかせる清代
は千年を松代春の山のやをとこ
なをそなたをまつ雪の物をひ
るに重ハ雪を窓ゆ心ひ歌を

目ノ一オ



正徳六申年正月吉書

目ノ一ウ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

諸家記太平記巻之一

目録

太閤秀吉公与明国朱の事

付 法宅霊府の秘法の事

相模の黄門配流の事

高田安房寺開幸法師小童へ授さる事

付 上州名木英雄勅の事

第相の山中新城の事

諸家前太平記序

松の葉の散うせず　巖の苔の千代万代も　ゆたかなる御代のためし　枕を泰山のやすきにをきて　はたれの雪の物さびしきに　昼ハ寒窓にむかい　夜は（目ノ一オ）灯によりて　かいやりすつる筆のすさみにかきつらね侍るも　堯舜　の民にひとしきためしならんかし

正徳六申年正月吉書（目ノ一ウ）

國護

諸家前太平記 一

此为试读,需要完整PDF请访问: www.erton